

岡本文弥没後15年祭 生きていてくれたなら今年116歳

ぶんや恋しや新内の夕べ

古風で古典的な浄瑠璃界の風雲児・岡本文弥
路地裏の老芸人は哀れを知る反骨の人
百歳過ぎても舞台、テレビ、原稿執筆の明け暮れ
かの山本安英さんをして、男の中の男といわしめた
文弥一代を偲ぶ、ぶんや恋しや新内の夕べ



在りし日の岡本文弥 1895年～1996年



東京谷中、新内一家の生まれ
若き日は作家志望
新曲の作詞作曲、
著書数知れず



築地明石町 鐘木清方



重要文化財
旧東京音楽学校奏楽堂
電話03-3824-1988
JR上野駅公園口下車徒歩10分
JR鶯谷駅10分、地下鉄ほか。

二〇一一年十月九日「日」夜六時三十分開演
旧東京音楽学校奏楽堂・案内略図裏面に掲載
前売・二千円／当日・三千五百円(全自由席)
●記念パンフレット「新内ぶんや・生涯現役」A4判24頁
■岡本文弥の会編／お申込みいただいたみなさまに進呈
主催・岡本文弥の会 電話03三七八一―五九六六



●司会・澤田章子(文芸評論家) ●新内流し(哀調の二三) 味線・岡本宮之助／岡本文之助

岡本文弥・新内語り 一世紀の人生

講演 作家 森まゆみ

晩年、ぶんや師匠から直々に聞き出した「一世紀の現役人生」
伝記『長生きも芸のうち』の著者森まゆみさんによる追善講演!

ぶんや新内の継承者・宮之助による名作二題

伝説のぶんや
プロレタリア新内
西部戦線異状なし

樋口一葉原作
岡本文弥作・作曲
十三夜 ぶんや十八番

●出演 岡本宮之助／鶴賀喜代寿郎／岡本文之助

✉ bunka@kuc.biglobe.ne.jp